

蛭ヶ岳山荘通信 第53号

発行日 平成24年2月1日
発行者 北丹沢山岳センター
事務局 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL042-687-4011
FAX042-687-3980

蛭ヶ岳山頂・春の雪解けと共にゴミの山が出現

蛭ヶ岳山荘では、毎年恒例となっている4月の北丹沢山開きに合わせ、春の雪解けと共に出現する空岳・ピン等のゴミの回収を実施致します。

昔、埋立処理されていたゴミが山頂の雪解け時の土砂流失により、ゴミが表面に顔をだし、残念ながら毎年、継続的な清掃作業が必要となっています。

今年4月15日(日)に実施致しますが、多くの登山者に参加していただき、自然保護活動の輪を広げて行きたいと思っております。

回収したゴミは山荘でヘリコプターでの荷上げ時、神の川ヒュッテにおろし相模原市の協力を得て処理致します。

皆様のご協力をお願い致します。

AEDを相模原市からの長期貸与して頂きました

NPO北丹沢山岳センター
蛭ヶ岳山荘代表 杉本 憲昭 様

F No. 0・4・2
平成23年8月12日

相模原市長 加山 俊夫 様



相模原市丹沢山塊 蛭ヶ岳(蛭ヶ岳山荘)より

遭難事故等で山荘利用する相模原市で最小限の医薬品・AED設置の要請書(お答え)

日ごろから、本市のスポーツ振興や災害救助につきましては、多大なるご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、回答が遅くなりましたことを、お詫び申し上げます。

ご要望につきましては、次のとおりお答えします。

ご要望につきましては、本来、市として民間施設へのAEDの設置は行っておりませんが、山岳地域という場所から、近隣に公共施設等もないため、人命救助の観点から長期貸出する方向で調整してまいりたいと考えております。

また、医薬品等につきましても、あわせて山荘に置くことについて、検討いたし、実際の配置につきましては、後日ご相談をさせていただきたいと存じますので、をさせていただきます。

今後とも、市政へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。



相模原市長 加山俊夫 殿

蛭ヶ岳山荘 代表 杉本憲昭

AED設置のご報告

日頃大変お世話になります。相模原市広聴広報課よりご提供いただきましたAED、薬品、毛布を平成23年11月27日に蛭ヶ岳山荘に設置させて頂きました。

山荘の玄関及び大広間に相模原市より登山者の安全、緊急対応の為、特別に提供された旨、表示させて頂きました。

登山者の安全を見守る蛭ヶ岳山荘として、職員一同努力致しますので今後共ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。ここに、ご報告とお礼のご挨拶を申し上げます。

丹沢の主脈線・丹沢山～蛭ヶ岳の登山道補修工事及び鹿柵工事終了

神奈川県丹沢大山再生事業の一環として登山道等の改修工事が県により進められ、昨年の秋から実施していた「丹沢山鬼ヶ岩～蛭ヶ岳」間の登山道補修工事及び鹿柵の設置工事が終了いたしました。昨年のヘリコプターの事故により作業が大巾に遅れ、厳冬下の厳しい作業環境の中工事が進められましたが、これまで難儀していた荒れた登山道が整備され、快適に歩けるようになりました。安全に登山出来る様になり、コース時間短縮及び疲労軽減に貢献しています。

表丹沢から蛭ヶ岳まで、これまでより楽に登山出来ますので、是非神奈川県最高峰・蛭ヶ岳まで足を伸ばしませんか。平成24年は「蛭ヶ岳～松洞丸」間の登山道補修工事が予定されていますので、尚一層、蛭ヶ岳が身近になりますので、楽しみにお待ち下さい。

平成23年10月3日

神奈川県環境保全センター 所長松田宏一様 丹沢主脈線(原小屋周辺)の倒木の撤去についての依頼

日頃のご支援に感謝申し上げます。

先月9月21日の台風15号の影響により丹沢主脈線(原小屋周辺)に倒木が多く登山者の歩行が困難で危険です。

早急に撤去工事をご依頼申し上げます。

当要請に対しセンターでは早速、倒木などの撤去整理をして頂きましたので、安心して通れます。

24年度友の会会費を振込お願いいたします

蛭ヶ岳山荘友の会 会費は1年間1,200円
振込先 郵便振替 口座番号 00270-5-12716
口座名義 蛭ヶ岳山荘友の会

自然再生シンポジウム ～見えてきた丹沢再生～ 報告書

平成23年10月30日(日)
主催：丹沢大山自然再生委員会
共催：神奈川県自然環境保全センター

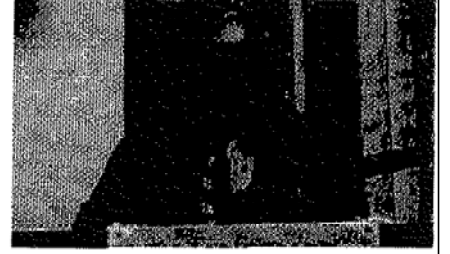
(2) 活動報告 13:05～14:35

〇地域で活動する団体の報告

・北丹沢青根地域から

NPO 法人北丹沢山岳センター 杉本憲昭

子供の頃のご経験、昭和30年代の山小屋ラッシュ、高度成長期及びバブル期の登山者の利用マナーなどを自身の経験を踏まえてお話しいただきました。また、丹沢のブナの立ち枯れやオーバーユース等の自然環境への課題や水源地域の水の確保として導入された水源環境保全税への期待についてのお話をいただきました。



4 活動報告

(1) 地域で活動する団体の報告

北丹沢青根地域から

NPO 法人北丹沢山岳センター 杉本憲昭

〈要旨〉

私が、神の川に出会ったのは、たしか中学校2年生の頃だと思います。

私の父が当時、土木作業員で相模湖にある「相武」と言う土建屋さんと働いており、神の川の水害工事に付いて行き、その水の怖さを見たのを覚えています。

そして、高校に入り山岳部へ入部したり、地域の社会人の山岳会を組織し、神の川の谷の長者舎山荘へ宿泊したこと、私にとって、神の川は生涯のパートナーとなりました。

この当時、山好きなおじさん達は神の川ヒュッテを作り、青ヶ岳山荘をつくりそして原小屋を作り、縦横無尽に登山道を作り、開拓していたのです。

こんな開拓期の中から若い山仲間、おじさん達と登山道の開拓に精を出し、特に佐藤小屋の盛次氏と共に広河原から金山の頭に抜ける佐藤新道を作り上げたのです。この頃の神の川の谷にはシカが多く、夜になるとシカの目の光がホタルにも似た光を放っていました。

ホタルと言えば、青ヶ岳山荘、蛭ヶ岳山頂、姫次には、箱根姫ボタルがランデブーし、夏の夜の客を輝かせていました。今でもキビガラ山から避難小屋に生息し、舞っています。

しかし、昭和30年代の山小屋ラッシュも10年過ぎると、大きく落ち込み、登山者はめっきり少なく山小屋の経営もままならず、多くの人達は、そこから撤退して行きました。特に、神奈川県で経営した山小屋は、民間へ委託しても成り立たず、小屋の解体などがあり、神奈川県最高峰、蛭ヶ岳山頂にある山荘すら、神奈川県が廃止することを打ち出したのです。これに山岳団体や一般登山者が神奈川県新聞への投書や諸行動の中で、民間から寄付を集め再建することで、廃止はかろうじて免れました。ほんの10年で開拓期は終わり、10年近くの衰退期を経て世の中は高度成長期へと、大きくカーブを切り、登山者が戻ってきたのです。

この時、時代は高度成長バブルを経験し、登山客も、山のルールなど無視し、山の自然を壊すことが多くなりました。

しかし、現在言われている自然環境への保全や保護、ほんの少し前までは、神奈川県は各登山道へ「くずかご」を設置し、1個500円で各山岳団体が請け負って、山は、くずかごで自然を守ろうとしたのです。(くずかご一杯になればそこに埋める。)神奈川県からしても山岳団体を含め、各登山者も同じような認識であったことは、そこにいた一人の登山者の私からも、認めざるを得ません。全ての関係者は、同罪だと思います。

私は、丹沢の木々の立ち枯れなどの原因は、多くの研究者の話は別として、京浜の工場から出す亜硫酸ガスが、丹沢へ霧となり、南面へ吹き付けることが最大の原因であると考えています。松食い虫や、ブナハバチ等の被害、丹沢の地層は若く関東大震災の震源地ともなり、崩れやすい地層であり、山は壊れる物、これは当たり前です。一部の人達は、山に人が入りすぎ、オーバーユースなどと、いきり立ちますが北丹沢で言えば、人が入らないからこそ、自然が駄目になってしまうことを知っているのでしょうか?山は、そんな柔な物ではありません。江戸の昔から日本の里山は、人の手によって作られ、人の手が止めてしまえば、その山や自然は荒廃することは自明の理です。

平成19年から神奈川県は、水源地域の水の確保として水源環境保全税を導入しました。この税金こそ、山へ10%投資し、山への再生に山村地域への、山村労働者の配置をすれば、村は、再生水が生き返ることが出来ます。北丹沢、神の川流域、青根は、この村の救世主は北丹沢の山々の再生なくしてはあり得ないと、確信しています。

⑦自然再生シンポジウムについて...

・ 今回のシンポジウムは「人も自然もいきいき丹沢」と書かれているが、プロを相手にした集会だと思う。施策や実行や行動と言いつつ、若者や子供に対するアピールが少ないのではないと思う。人の位置付けも構想に入れてもらいたい。(参)

・ 今日のシンポジウムは、丹沢再生に参加している団体の方々の交流がねらいだったので、専門的な内容が多く堅くなったと感じている。再生委員会自体もより広く、次の世代の方に参加してもらうことは必須である。再生委員会は色々な団体が参加しているが、何か1つの事業を行う事業体ではない。そこに参加している団体のやり方、目的をもっと広げていくべきでないかと考えている。しかし、委員会が硬い、閉鎖的、分かりにくいというご意見は十分承りたい。(木平)

今までは蛭ヶ岳に来る方は60～70代の方が中心だったが、最近は40～50代が登山者の主流になっている。ここ1、2年確実に世代が移りつつあると感じている。若い人達に期待している。(杉本)

⑧その他

・ 他にもオオカミの再導入について、外来植物について、自然林のツル切りなどの手入れについて、などいただいたご質問は県のパブリックコメントで対応していく。(壺坂)

(4) 総括

NPO 法人神奈川県自然保護協会 新堀豊彦

新堀：皆様、長時間ご苦勞様でした。充実した議論ができたように感じている。県民の皆様方が、我々の宝である丹沢に対してこのように時間をかけて、お集まりいただきご議論いただくことは、私たちにとっても県にとっても大変ありがたいことだと思っております。いずれにしても、丹沢の問題は永遠に続くと思う。ここで良いということはおそらくない。従って、これからは永遠に丹沢を守るために、丹沢の自然を良くするために、私たち県民は努力していかなくてはならないだろうと考えている。今日お集まりいただいた方は、特にご熱心な方々だと思うので、丹沢に対する興味と関心と、そしてご協力をいただきたい。今日は誠に長時間ご苦勞様でした。心から厚く御礼申し上げます。閉会の言葉といたします。